

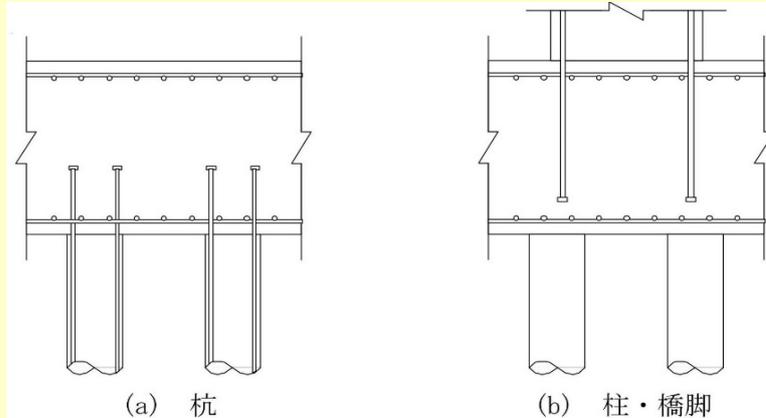
プレート定着型機械式定着鉄筋「Head-bar」

軸方向鉄筋定着の適用範囲を拡大(D35~D51を追加して全ての鉄筋径で適用可能)

2022年12月に建設技術審査証明において、軸方向鉄筋定着の適用範囲の拡大(D35~D51)が認証されました。

1. 軸方向鉄筋に用いる場合の適用範囲

杭・柱および壁等の軸方向鉄筋をマッシュブなコンクリートに定着する場合に用いる。定着先がマッシュブなコンクリートと扱えない場合、および定着部分のかぶりが高に確保できない場合等は、適用の範囲外である。



軸方向鉄筋の適用例

軸方向鉄筋に適用した場合のHead-barのプレート最小寸法(単位:mm)

呼び名	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41	D51	プレート形状と種類の記号	
必要最小径(mm)	32	40	50	55	60	70	80	85	95	100	130	円形	
プレート 最小厚さ (mm)	SD295	—	9	12	16	16	19	19	22	25	25	32	S35C, S45C
	SD345	9	9	12	16	16	19	19	22	25	25	32	S35C, S45C
	SD390	12	12	16	19	19	22	22	25	32	32	38	S45C
	SD490	—	—	—	—	20	24	26	28	32	33	42	S45C

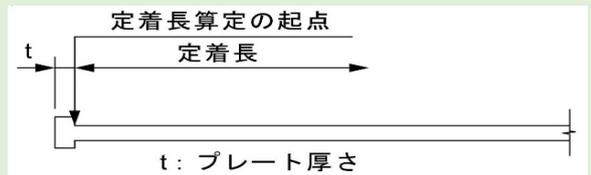
2. 軸方向鉄筋に用いる場合の配置について

1)「Head-bar」を軸方向鉄筋の定着に用いる場合は標準フックに代えて用いることを原則とする。この場合の定着長は、標準フックの場合と同様に基本定着長から鉄筋の呼び名の数値の10倍の長さを減じた長さとする。

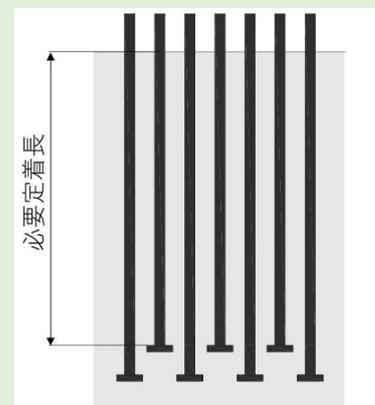
なお、「Head-bar」の定着長は、右図のようにプレート端部から板厚を差し引いた位置を起点として算定する。

2) 鉄筋のあきは、適用する設計基準(道路橋示方書・コンクリート標準示方書等)に準拠することとする。また、プレート間のあきも適切に確保しなければならない。

同列配置でプレート間のあきを適切に確保できない場合は、右図のようにプレート位置を鉄筋軸方向に1本ずつ交互にずらして配置するなどしてあきを確保するのがよい。



「Head-bar」の定着長



プレート間のあきを確保するための配置例

橋脚柱 主鉄筋(D51)の定着に適用した例



(問合せ先) **VSL**
 ブイ・エス・エル・ジャパン 株式会社
 Head-bar事業本部
 TEL : 03-3346-8913
 担当: 日笠、近藤、内田、坂井

ホームページ
QRコード

